

【施策評価調査】

施策名	2-4-2	「居場所づくり」あそぼうねっとプロジェクト		91	子ども達が地域で様々な交流を行うことで、地域で築き上げてきた文化・技術の伝承ができるたり、子ども達のコミュニケーション能力の向上や思いやりの心の育成を図る。
		高根沢町地域経営計画2006 該当ページ			
担当部課	教育部	こどもみらい課	担当 リーダー	児童福祉担当 戸井田 和明	地域で子どもたちが仲間や異世代との交流が図れるよう、地域において様々な活動の機会をつくり出します。そして、社会性を学び、柔軟な感性を育むことができるよう、地域全体が子どもたちの居場所となるように支援していきます。(「高根沢町地域経営計画2006」からの抜粋)
環境変化					

指標

施策の評価指標	基準値	年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
指標：昔の遊び体験年間開催回数(回)	平成16年度 0回	計画	5回	12回	15回	20回	30回
		実績	3回	5回	4回		
指標：3世代体験教室年間開催回数(回)	平成16年度 0回	計画	11回	13回	16回	20回	22回
		実績	9回	4回	5回		
指標：自然体験年間開催回数(回)	平成16年度 0回	計画	9回	12回	15回	20回	20回
		実績	11回	10回	7回		
指標に関する特記事項							

施策に係る事業費(傘下事務事業費計)の推移	年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
	当初	294,000	0	848,000		
	決算	321,429	0	660,449		

事務事業事前評価 22年度の組立て

施策傘下事務事業	事業費	活動指標(アウトプット)	事業の実施によって、施策達成にどう貢献しますか?(アウトカム)	今後の方向性(総合評価)	継続
児童館(みんなのひろば)指定管理委託事業	H21 現計 13,750,000 H22 計画 13,750,000	「みんなのひろば」月平均利用者数 1,000人	児童館又は地域で多彩な事業を展開することで、子どもたちの健全な育成を担うことができ、子どもたちが地域で安心して過ごせる場所が確保できる。また、子どもたちの親に対する支援なども積極的に行うことで、より子どもたちが安心して成長していける	今後の方向性(総合評価)	継続
児童館(きのこのもり)指定管理委託事業	H21 現計 14,244,000 H22 計画 14,244,000	「きのこのもり」月平均利用者数 1,200人	児童館又は地域で多彩な事業を展開することで、子どもたちの健全な育成を担うことができ、子どもたちが地域で安心して過ごせる場所が確保できる。また、子どもたちの親に対する支援なども積極的に行うことで、より子どもたちが安心して成長していける	今後の方向性(総合評価)	継続
学童保育所指定管理委託事業	H21 現計 21,563,000 H22 計画 21,563,000	学童保育所(8箇所)月平均利用者数 380人	放課後の子どもたちの安心安全な場所の確保ができる。また、ここで、仲間たちと一緒に遊んだりすることで、子どもたちの健全な育成を図ることができる。	今後の方向性(総合評価)	継続
地域福祉活性化事業費(再掲)	H21 現計 H22 計画 2,270,550	拠り所の設置、福祉ネットワークの立ち上げ 2地区	町社会福祉協議会において策定された「高根沢町地域福祉活動計画」の取り組みで、地域の寄り合いの場(サロン)づくり事業が、こども居場所づくりにもつなげることを視野に入れて連携をしていく。このことで、施策の達成の一助となる。	今後の方向性(総合評価)	継続
	H21 現計 H22 計画			今後の方向性(総合評価)	
	H21 現計 H22 計画			今後の方向性(総合評価)	

施策事前評価 22年度の組立て

自己評価	後期計画に向けた施策展開のビジョン		H22年度の狙い
	今後の方向性 現状水準維持	次世代育成支援計画実行委員会や児童館等を中心として地域の中で様々な形で交流活動を実施している。児童館や学童クラブの中でより多くの事業を展開することで子どもたちの健全な育成を図ることができる。	
総合評価	施策展開を整理したことを評価する。 ただし、他課が行っている施策と役割分担や調整を図った上で、他施策との統合も視野に入れた検討を行うこと。また併せて、指標の見直しを行うこと。		